

## 氷雪の落下による危害の防止と 落雪スペースを確保した住宅等の建築計画をしましょう！

北海道内では比較的積雪量の少ない地域として白老町は知られております。しかし少ないと言っても12月から翌年の3月にかけて、積雪量が30cmを超えることが数日続くことがあります。

最近、狭い敷地に住宅が建てられるケースが増えており、隣接地への落雪や雪処理の問題で隣土士のトラブルが多く発生しております。また、道路等に氷雪が落下する極めて危険な状況も見受けられます。このように、一生に一度の大切な住宅が、このようなトラブルによって、お互いに気まずい感情に影響されながら生活するのは避けたいものです。

一般に、住宅などで雪処理の問題が発生するのは、建設の計画段階で、冬季間の積雪状態などを考慮しなかった場合に多いようです。積雪寒冷地での住宅を考えると、建築基準法などの法的規制や快適性、断熱・気密性等を考えるだけでなく、プラスアルファの要素として雪処理についても考えることが当然必要です。当初から道路等や隣接敷地に落下しないように雪処理を考慮することで、隣接地とのトラブルはかなり避けられます。

表-1は、屋根勾配と落雪飛距離の関係を計算上で、軒先端部から落雪した距離を最小限に想定したものです。白老町内（森野地区を除く）での落雪型屋根の住宅を建築する場合は、降雪量が比較的少ない実情を考慮して計算しておりますので、軒先から隣地敷地境界線までの距離を表-1の数値を最低として確保することにより、隣接地とのトラブルはかなり避けられます。

なお、住宅の計画段階で、上記の距離を確保できない敷地については、無落雪型屋根の採用または落雪防護柵・雪止め金具（計算に基づく適切な個数）を設置することにより、隣接地とのトラブルはかなり避けられます。

（平成8年4月1日 白老町都市建設部 建築課（現 白老町建設課））

表-1 屋根と最低落雪飛距離の関係

（単位：m）

凡例図	軒高	屋根勾配	屋根傾斜投影距離										
			1.80	2.25	2.70	3.15	3.60	4.05	4.50	4.95	5.40	5.85	6.30
	平屋建て程度の高さ	2/10	0.7	0.8	0.9	1.0	1.0	1.1	1.2	1.2	1.3	1.3	1.4
		4/10	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.5	1.6	1.7	1.7	1.8	1.8
		6/10	1.2	1.3	1.4	1.4	1.5	1.5	1.6	1.6	1.7	1.7	1.7
		8/10	1.2	1.2	1.3	1.3	1.4	1.4	1.4	1.5	1.5	1.5	1.6
		10/10	1.1	1.1	1.2	1.2	1.2	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.4
	二階建て程度の高さ	2/10	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.7	1.8	1.8	1.9	2.0
		4/10	1.7	1.8	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8
		6/10	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.8
		8/10	1.8	1.9	2.1	2.2	2.2	2.3	2.4	2.5	2.5	2.6	2.6
		10/10	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.2	2.3	2.3	2.3	2.4
	三階建て程度の高さ	2/10	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.4
		4/10	2.1	2.3	2.5	2.6	2.8	2.9	3.1	3.2	3.3	3.4	3.6
		6/10	2.3	2.5	2.7	2.9	3.0	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7
		8/10	2.4	2.5	2.7	2.8	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.5
		10/10	2.3	2.4	2.5	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.1	3.2	3.3

# 雪止め金具の取り付け方について

平成19年9月1日一部改正

一般に屋根に雪止めを取り付けると、すがもり・つらら・屋根の傷みなどが生じやすく建物のためには好ましくありません。しかし、落雪の危害防止や堆積場所の関係で、やむを得ず雪止めを取り付けなければならない場合もあります。そのときは次の点に留意して施工するとよいでしょう。

## 1 雪止め金具の選定

長尺鉄板たて平葺用のものは一般に広く用いられ種類も多いようです。そのうち強度や変形の点で優れているものは、ボルトで締めつけるタイプでは取付部が2枚に分かれボルトが2本のもの、その他のタイプでは雪の滑動力が加わるほどハゼによく固定されるワンタッチ型があります。いずれもハゼを締め付ける部分の部材が厚く、ハゼに一樣に締付力が加わるようになっています。

上記以外の葺き方の雪止め金具には種類が少なく、1～2種類ほどです。

## 2 取り付け方法

ボルトの締付けは、ハゼを傷めない程度にできるだけ堅く締付けます。緩いと下にずり落ち屋根を傷つけ、強すぎてもハゼを傷めます。

なお、長尺鉄板は0.35mm(#29)以上の厚さが必要です。

## 3 配置

雪止め金具の配置を決めるには、表-2によって大体の間隔を求め、実情を考慮して図-1のようにチドリに配置します。

表-2 雪止め金具の所要数量

(屋根面積雪量70cmの屋根面1㎡当り)

屋根勾配	2/10	3/10	4/10	5/10	6/10
所要個数	0.34	0.66	0.97	1.25	1.50
基準間隔cm	646	333	226	175	146

(北方型住宅技術解説書P.89参照)

図-1

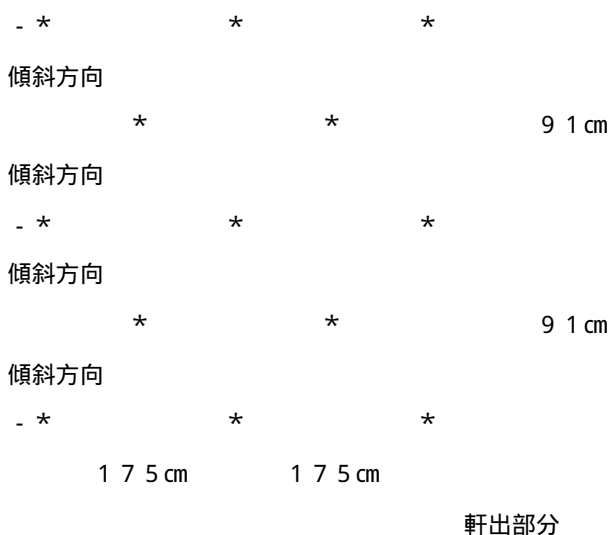


図-1のように、屋根勾配5/10の場合は、上表より91cm間隔で千鳥配置とすると傾斜方向の間隔は $100 / (1.25 \times 0.455) = 175\text{cm}$ となります。

従って、この値を基準とし、積雪分布の実情を考慮して棟部は間隔を広げ、軒の方はせまく配置します。

なお、屋根勾配7/10以上の急傾斜屋根の場合は、雪止め金具の効果が少なくなりますので、軒先から隣接境界までの距離を表-1の距離以上確保してください。

雪止め金具は屋根面全体に分散して取り付けることが必要です。そこに力が集中して雪止め金具やハゼを傷めます。

また、予想外の積雪があった場合、適宜に雪を下ろすことや毎年の点検・保守管理を忘れないように行うことが必要です。

(白老町限定特定行政庁扱い)